

第64回全国スポーツ推進委員研究協議会（青森大会）

林 但

11月16日（木）17日（金）にかけてリンクステーションホール青森に全国から2800名余が会場いっぱいに参加。大会テーマは『「スポーツで煌めく笑顔のために」～青い森から縄文の風にのって全国へ』です。今回初日は通常より30分早く始まり終了も16時55分でした。青森工業高等学校ねぶた部青森ねぶた囃子、五所川原第一高等学校津軽三味線部津軽三味線演奏で元気に幕が開きました。開会式・表彰式では、神奈川県内から以下の方々が受賞されました。

- ◎文部科学大臣表彰 80名内神奈川県7名（横三ブロックから逗子市山口さん）
- ◎スポーツ功労者表彰 177名内神奈川県15名（横三ブロックから逗子市岩下さん）
- ◎優良団体表彰 40団体内神奈川県からは大和市スポーツ推進委員連絡協議会
- ◎30年勤続スポーツ推進委員表彰 316名内神奈川県6名
- ◎一般賛助会員表彰 47個人内神奈川県3名（横三ブロックから横須賀市山田さん・武さん）

基調講演は女子陸上競技オリンピック4大会連続出場で五所川原市の福士加代子さんが軽やかに走って登壇、演題は「笑って走れば福来たる」です。講演と映像紹介と会場（別のサテライト会場含む）との質疑応答です。印象に残っているのは3つです。①負けたことに負けるな、次に生かせ（高校の恩師）②今の自分にできることは何を考えて行動 ③終始笑顔です。

スポーツ庁からの情報提供として「部活動の地域連携・地域移行」に関する内容で、課題は少子高齢化、働き方改革、地域住民によるスポーツ・文化への取り組みである、スポーツ庁のホームページでも確認できます。

シンポジウムでは、「コロナ禍を超えたコミュニティスポーツの新しいかたち」で、変容しつつある地域スポーツの仕組みをめぐる課題や期待されるライフスタイルについて3名の方から提案がありました。中でも翌日参加の第一分科会の新潟大学村山敏夫准教授の話が印象深く残っています。「コデザイン」みんなで一緒に作る、協働デザイン。その為に課題を自分事としてとらえる、集団内で共有、自分たちでできると思うことが大切。「ナラティブ」語り手が主体となる物語、笑いは寿命を伸ばす、そのために運動・活動したくなるしかけを作る。ワクワク・ドキドキ・思い出となる体験をさせるである。

2日目の分科会では、昨日のシンポジウムを踏まえ、3名の発表者（90歳代・80歳代・60歳代）の方が実体験の発表はとても説得力ある内容で、「健康であってこそ」の言葉が印象に残る。

来年は宮崎市で11月14日15日、特別講演は増田明美さん（スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授）である。



大会冊子



県祝賀会 大和市挨拶



冒頭のアトラクション